

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

平成 30 年度病虫害発生予察注意報第 1 号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第 1 号（キウイフルーツかいよう病 Psa 3 系統）を発表したので送付します。

注意報第 1 号

- 1 対象作物：キウイフルーツ
- 2 病虫害名：キウイフルーツかいよう病 Psa 3 系統  
(*Pseudomonas syringae* pv.*actinidiae* biovar3)
- 3 発生地域：県下全域
- 4 発生量：前年より多
- 5 注意報の根拠

(1) 定点調査

本年のハイワードにおける枝での発病は、4 月 2 半旬調査では昨年より早く、発生樹数も多かった（平成 30 年度発生予察技術情報第 1 号）。5 月 2 半旬調査における葉での発病も昨年より多く、風雨によって感染が拡大したと考えられる（図）。

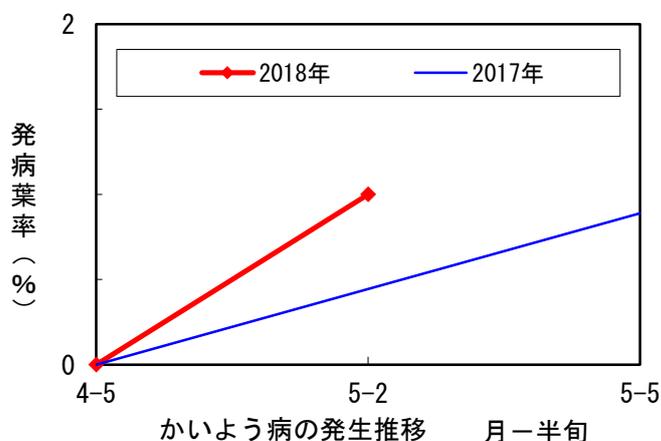


図 ハイワードにおける発病葉率（5 樹×60 葉、3 地点平均）

## (2) 緊急現地調査

- ・レインボーレッドでの発病は昨年同様多かった。
- ・ヘイワードでの発病は、昨年より多く確認された。特に、風当たりの強いほ場などで激しく発病していた（写真）。



写真 ヘイワードにおける葉の発病

## 6 防除上注意すべき事項

今後、風雨により飛散し、周辺園地へ感染拡大する恐れがあるため、本病発生園地や周囲に発生園地がある場合は、以下の防除対策を徹底する。

- (1) 樹液の漏出や芽枯れ、発病葉等を確認した場合は、防除対策マニュアルを参考に枝を除去する。6月になると擬似病斑が増えて病徴による判断が困難になるため、対策は5月を重点に行う。発生が疑われる場合は速やかに関係機関へ連絡し、対応を協議する。
- (2) 銅水和剤、あるいは抗生物質剤を定期的に散布する。銅水和剤は薬害が生じやすいので炭酸カルシウム剤を加用するとともに品種や時期、薬剤の選択に留意して散布する。
- (3) 受粉は、かきよう病未発生地域で採取されたことが確認された花粉を用いる。
- (4) 器具や人への病原菌の付着による伝染を防ぐため、園地内の衛生管理を徹底する。
  - ① ハサミやノコギリ等の器具は使い回しせず、園地ごとに決められたものを消毒して使用する。
  - ② 園地に入る前に手と靴（特に靴底）を消毒する。
  - ③ かごやキャリーに植物残さを混入させない。
  - ④ 園地を出る前に、すべての服、帽子、靴についての植物残さ、靴底の土を除く。
  - ⑤ 園地を出たあとは、手、服、帽子、靴（特に靴底）を消毒する。
  - ⑥ 発生園で作業した場合は、そのままの服装で他の園地へは行かない。

※ 手は消毒用アルコール（70%）、靴や管理器具は次亜塩素酸ナトリウム水溶液（ハイター等）で消毒する。

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

